

研究・調査報告書

報告書番号	担当
142	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol use trajectories and problem drinking over the course of adolescence: a study of north american indigenous youth and their caretakers. 青年期のアルコール摂取軌跡と問題飲酒：若年北米先住民とその世話人の研究	
執筆者	
Cheadle JE, Whitbeck LB.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Health Soc Behav. 2011;52(2):228-45.	
キーワード	
北米先住民, アルコール, 飲酒問題, 若年飲酒	
要旨	
目的： 本研究はアルコール摂取歴と飲酒問題(DSM-IV 誤用/依存症)を関連づけて調査した。	
方法： 対象は言語と文化が同じ8つの居留地の10~17歳の北米先住民727人とした。基礎的要因, 社会的ストレス要因, 支援, 精神社会的側面(若年期からの飲酒による問題飲酒)を関連づけた成長混合モデルを用いて推定した。	
結果： 20%の若者が11~12歳に飲酒を開始し, さらに20%がすぐ後に飲み始めたことが示された。13歳から飲酒し始めた若年飲酒者は問題飲酒のリスクが非常に上昇した。因果関係分析では, 差別のようなストレス要因が直接的また間接的に早すぎる問題飲酒に影響した。女子学生では, これらの要因とは無関係に危機に瀕していた。	
結論： 10代の北米先住民を対象としてアルコール摂取歴と飲酒問題(DSM-IV 誤用/依存症)の関連について調査した。その結果, 早すぎる飲酒開始は問題飲酒のリスクの上昇に関連し, ストレス要因が早すぎる飲酒開始と問題飲酒に影響していた。	